

プログラムの概要

農業環境工学専攻の教育プログラムは、食料生産に関わる生産基盤の整備・保全、生産の効率化、農村環境の保全と整備、自然生態系の管理・創出、食料供給の効率化、地域資源の循環・再利用化を対象とし、これらの計画、設計、制御、評価に関わる知識および工学的手法を修得するカリキュラムを構成しています。このプログラムでは、高度な専門的知識を有する技術者、創造性豊かな研究者を養成します。

修了認定の基準 (ディプロマ・ポリシー)

高度専門技術者および研究者となる際の基本的素養を修得し、また農業環境工学関連産業と研究との関係を広く理解することにより、農業環境工学分野において十分に活躍できる人材の養成を行います。

- (A) 環境と調和した農業システムや田園空間の創出に関わる高度な工学的能力を修得する。
 - (B) 農業環境工学に関連する高度な専門的知識を修得する。
 - (C) 論理的思考法、各領域の先端的な知識と実験技術を学び、未解明の課題に対する柔軟な問題解決能力を修得する。
 - (D) 国際社会で通用するコミュニケーション能力、キャリア開発できる能力を修得する。
- 所定の年限において所定の単位数を修め、修士論文の審査に合格し、上記の目標を満たした者に学位を授与します。

履修条件 (アドミッション・ポリシー)

1. 求める学生像

工学的な素養を基礎として、環境と調和した農業システムや田園空間の創出に関わる高度な専門知識の修得、課題の設定及び解決能力の向上に意欲がある人を求めます。

2. 入学者選抜の基本方針

- (1) 志望する教育研究分野に関する基礎的知識と論理的思考力、ならびに外国語に関する基礎的運用能力を考査します。
- (2) 農業・環境に関わる課題への関心や学修意欲などを評価します。

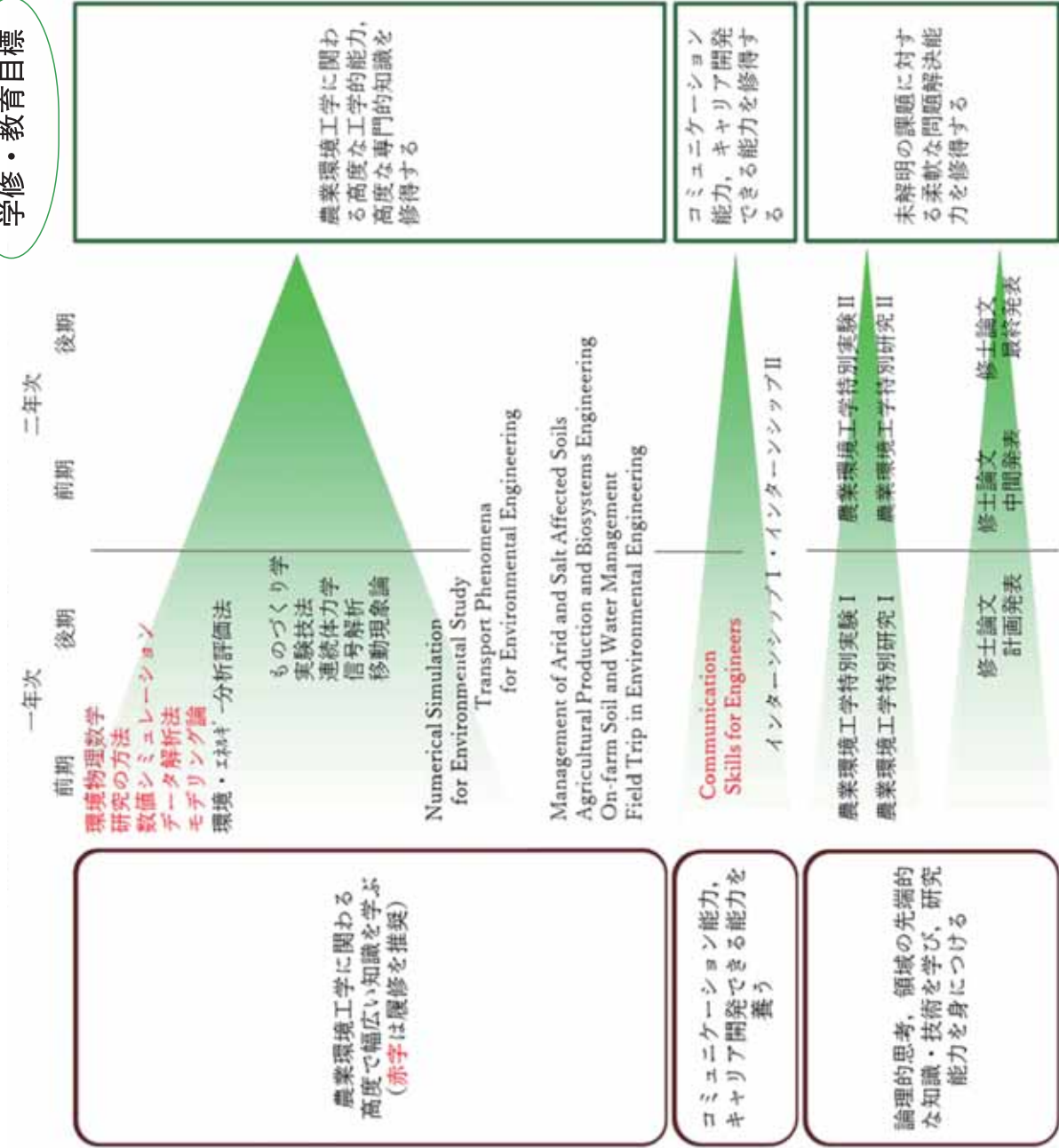
学修・教育目標を達成するためのカリキュラム方針 (カリキュラム・ポリシー)

1 年次は講義を中心としたコースワークに重点的に取り組み、2 年次は修士論文研究に重点を置いたりサーチワークに取り組みます。

- (1) 農業環境工学に関連する高度で幅広い知識および工学的能力を、講義と演習により修得させる。
- (2) 未解明の問題に対するアプローチ手法、論理的思考法、各領域の先端的な知識と実験技術などを修得させる。
- (3) 国際社会で通用するコミュニケーション能力、キャリア開発できる素養を修得させる。

農業環境工学専攻 カリキュラムツリー

学修・教育目標



農業環境工学専攻の専門科目・内容